次号には

小蓮女史作小説の續稿
韻文

其他最も愉快な雜纂及通信問答

いらつめ第六十九號目次（明治廿三年九月五日）

●雜纂…精神と美色との關係
○指れ股ノ腐爛
○紅潮は遺傳するもの
●寄書…西洋菓子製造法（三）……うめ子
○簡易染物法……ゐ、く、
黒茶染＝江戸茶染＝こび茶染＝けんぼう染＝七りやう染＝かしは染＝梔子染＝紺屋糊の製法＝絹花色染＝仝紅酒色染＝仝桃色染＝仝黄色染＝木綿をさらす法＝木綿黄色染＝仝桃色染＝仝藍色染＝仝空色染＝仝瑠璃色染
○トランプ遊戯法につき……岩槻より
○言文一致につき……擔澤庄吉
●通信紹介……數件
●通信問答……床板の種類及び其色附方＝顔のしみを取る法＝サルサ根＝府下屈手の女學校＝校書＝顔に網をかける＝賎の小田卷＝たらちねの親＝南無三＝色の白いは七難かくす＝文章の圏点＝おッかあい＝腐ッた石炭酸＝黒子＝脊の高いのを低く見せる＝谷峨＝最も近い星の距離＝汽車に乘る心得種々＝大内香＝荷葉香＝最上香水＝唇を眞紅にする＝目尻耳へ紅をつける＝ビスケット＝玉琴＝鼠除け＝薔薇の色

社告及び社則　いらつめ一部定價金二錢五厘郵稅共金三錢、十二部金二拾九錢郵稅共金三拾五錢、二十四部金五拾七錢郵稅共金六拾九錢、三十六部金八拾四錢郵稅共金壹圓〇二錢ハ四十八部金壹圓郵稅共金壹圓二拾四錢〇別錄一部金三錢五厘郵稅共金四錢、二十部金六拾五錢郵稅共金七拾五錢、五十部金壹圓六拾五錢郵稅共金壹圓九拾錢〇並別册共前金領收の上で無くての差上げぬ事〇府內に限り無郵稅〇毎月二回（五日及二十日）發兌〇金子御差し送りの手續きハ郵便小爲替なれば拂渡郵便局をある處に神田郵便局と記し受取人欄內に（神田平永町九番地成美社）と御記入の事〇郵券代用は郵便爲替の無い處に限り五厘切手で一割增しなれは妨け無い事〇見本は五厘切手で並製五錢別製七錢領收の上差し上ます〇廣告料一行金八錢、割引無し

本號には

精神と美色●西洋菓子製法　紅潮 簡易染物法 言文一致論　床板色附法

汽車に乘る諸心得　大内香　荷葉香 唇を眞紅にする事

玉琴●鼠よけ●薔薇の色

雜纂

美色と精神との關係

美色と精神との關係については隨分考へを要する事が有ります。 横濱のガゼット新聞は去る八月廿八日の紙上に於て「腦髓と美色」と題して一篇の論文を載せました。

其言ふ處は左のとほりです。

「腦髓即ち精神と美色とはいつも反比例を做すもので、美色の人には智者華者少なく、醜貌の人には多く賢人達才も有る事です。 今ひとり婦人について之を言ふに容貌の生れつき美くしいものは自らそれを誇る氣になつて、自然に才を磨くのを疎濶にし、之に反して生れつき容貌に欠けて居る婦人は其方で勝を制する事の難いのを知るため却ッて精神をみがき上げ、此二点の相進する處終に賢愚智鈍の差を爲します云々」

はあれだもッともな論、たゞ之が序を以て吾々が言ひたいのは精神と美色との間に密接の關係あることです。

生れつきの美不美は是どうも直し方の無いもの、有ッた處が補ひです。 が、唯その品格、是ばかりは心から現れるもの、如何に美人でも、高貴でも精神が清浄潔白、温雅優美で無ければ品格は乏しいもの、よしや生れ立ちはまるくとも心さへ高尚なれば品格は必らず顏——のみか擧動にも——現はれるもの。天賦の色は決して誇るに足らず、望むべきは只々その品格を備へることです。 英語で言ふグレースフルなど即ち是れ、淑女の本質はこゝにあります。

指の股は腐爛

糸を繰る工女の指の股はよく腐れ爛れるもので甚だ氣の毒なものです。 之を治すには米糠の油が第一です。大きな茶碗の上に目はやゝあらい紙を張り其上に糠を置き、火にあてると其油だけが紙から拔けて茶碗にたまります。工女が仕事を終つてから之を塗つて寐れば翌朝全くなほります

紅潮は遺傳するもの

婦人なるが羞ぢて顏を紅くすること、是は婦人に取つて其婦人らしい可憐の質を持有するといふ証據で尤も愛らしいもの。これの無い婦人は莫連です。 が、この顏を紅めるといふ事、人により強弱が有り、それでこれは遺傳するものです。 あの事はだろうゐんも言ひました。 現に吾々が實際に之を見ました。 年四十を越えて猶つまらぬ事にも紅潮し寄せる人の娘に同じ類が有つて而も其男子にもまた同ト形迹が有りました。

簡易染物法

ゐ、く、

染物の業は染工の専門とする事で、迚も自家では容易に出来ないもの、この其方法は大略と知つてゐると大に利益あるものです。　染めて地のいたむれといたまないのがあり、染め加減で仕上がりの良い否いのかなる通り、仕方によつて随分利不利のあるものです。　次に簡易な染物法のならましを書き連ねましやう。

黒茶染　下地を藍で濃く染め、其上をあたらしい楊梅皮を煎じて六七遍ほど染め、そして泥は水でとき右の染物を四半時ほどもひたしておき、取りあげ、乾して又水に漬そのです。　二遍ひたせば色が濃くなります。　泥にひたして若いて染めます。　又楊梅皮を用ゐないで椿の木の皮を用ゐても差支ありません。　寒いときは泥を熱湯で解いて染めると地の損をしません。

江戸茶染　楊梅の皮とすいの木の葉とを煎じ、五六遍ほど染めて、あげあがら一遍につき明礬の粉を茶一ぷくほどかきまぜ、入れて染まるのです。

こび茶染　下地染は前と全しくし、染ま上げに緑礬を茶一ぷくほど入れて染めるのです。　泥に入れても同じ事ですが、泥に入れると地を弱くする損があります。

びろうど染　下地と濃い花色に染め、其上をかりやすを煎じて染めるのです。

けんぼう染　下地を濃い花色に染め、其上を楊梅の皮を煎じて三遍ほど染め、藍で一遍染め、又楊梅で染めるのです。

黒染　下地は楊梅の皮を細く砕いて煎じ、七八遍ほど染め、其上に泥をぬつて日に乾すのです。　下地染の濃いほど色が黒くあがります。　布帛一端に楊梅の皮一斤ほどの割でよろしいです。

七りやう染　赤色です。　木綿一端を染めるには蘇方木五十匁、黄蘗十五匁、楊梅の皮十五匁、あゐ松十五匁、竹の葉十三匁、明礬七匁、右六色を鍋に入れ、大飯椀に水六杯ほと入れ、三杯に煎じ、二番には全じ椀で水七杯入れ、三杯に煎じ、三番には水八杯入れ、三杯に煎じ、さて一番二番三番皆一つにして、明礬を粉にして入れ、三遍染めるのです。

かしは染　黒染です。　久しく色が變らず強いです。　柏の葉を取つて濃く煎じ、籡子で布帛をはり、此煎汁を刷毛で數十遍引き、その後黒泥に漬し、暫くして洗ひ落すのです。

梔子染　梔子の皮と實を細かく刻み、一夜水に漬し、能

く揉んで後布嚢で漉し、滓を去り、其汁に布帛を漬し、一夜おいて陰けの日絞りあげ、糊をつけ、布帛の裏を日に乾そのです。 乾さおいと變色の患ひがあります。

紺屋糊の製法

紺屋糊の製法ハ糯米一舛よく精らげ、滓のあい樣に細末にし、竈灰二匁二分入れ、能くまぜて後常の團子よりハ少しかたくこね、鍋に入れ能く煮て、火をたやそてよし、能くむしおき、後に器よ入れ、さめた中よ竈灰二匁二分湯でとき、右の糊よ入れ、能くまぜて用ゐるのです。

絹類を染める法

絹類染下　熱湯二斗二舛五合の中に濃く溶した石鹸水五合入れ、絹を其中にひたし、凡五分時間で取り出し、淨水で洗ふこと二回、次に木綿につゝみ、徐々水氣をしぼり、直に左の染色法を行ふのです。 又乾して後日染めるのも妨げありません。

花色染　先づ適宜に微温湯を銅器に入れ、綿類とひたし直ちに取りいだし、水氣をしぼり、藍瓶よひたし入れ、暫くして引き出し、藍汁を瓶の中にしぼり入れ、或ハ品物よより絞らずに竿にかけ、しばらく日に乾し、淨水で洗ひ、水氣をしぼり、直よ乾すのです。 もし黑色を帶ばせやうと思へバ熱湯で少し許りの亞室兒をとかし、其中にひたし、適宜の度を見て取り出し乾すのです。

紅酒色染　紫花百匁(絹五百匁の量)と麻の嚢よ入れ、熱湯で十五分間煮、嚢をいだし、其煮汁の中に品物を三十分程ひたしてとり出し、温度のさッたころ淨水でよく洗ひ、暖室で乾そのです。 藍氣を帶バし兂るにハ少許りの安謨尼亞汁を加へるのです。

桃色染　微温湯七舛を銅器に入れ、またく別の器中に眞珠灰十五匁(絹六百二十五匁を染める量)を入れ、熱湯をそゝぎ、溶解させ、これと微温湯中にそゝぎ、紅木綿(紅を木綿に沁入させた染料)一枚を入れるのです。 紅の流出それバ木綿を取り、更よ別の器で酒石酸二十二匁五分を解し、漸次にかの紅汁中に注入し、そして染桶よ水三斗をみたし、紅汁を入れ、品物を其中に浸し、二十分たつて取りだし、又酒石酸二十二匁五分を微温湯七舛五合の中に入れ、とかし、品物と此中に五分ひたし、水氣をしぼり、暖室で乾かし、薄く糊を施そのです。 品物を浸す時間の長短、分量と加減それバ、能く薔薇色、深紅色等と染だせます。 そべて紅色染めハ蒸

氣や日光を避けてはさあけれバありません。

　黄色染　明礬水(水二升五合明礬百匁)れ中に品物をひたし、一時間そのまゝにして取り出だし、微温湯で洗ひ、水氣をさり、更に富斯室谷の煎汁中に入れ、三十分ひたしてとり出し、此の汁の中よかの明礬水三合七夕余を注ぎ入れ、再び品物をひたし十分間も入れて、水氣をしぼり、暖室で乾そのです。

　　木綿を染める法

　木綿をさらす法　大鍋の中に浄水二舛五合ほどに苛性剝篤亜斯三合七夕余を入れ、生木綿を三時間も煮てとり出し、浄水で別の器よ熱湯二舛五合ことに晒汁三合七夕余を入れ、其木綿と六時間浸し、取り出し、又別の桶に水二舛五合ことに硫酸五勺をそゝき入れ、又かれ木綿を一時間ひたして取り出し、浄水で能く洗ひ、酸氣をさり、左ふ記す染色法を行ふれです。

　黄色染　桶に水をミたしこ醋酸鉛二百匁入れ、其中よ鹽酸一合八夕余投し、能く混和し、木綿一貫目入れ、五十分ひたして取り出し、水氣をしぼり、更に別器に水を満たし、格魯謨四十五匁と投し、とかし、かの木綿と入れ、十分ほせひたして取出し、水氣をしぼり、浄水でわらひ、再び醋酸鉛の汁中にびたし、十分過ぎて取り出し、水氣をしぼり、浄水であらひ、ほそのです。

　桃色染　紅花二百匁(木綿一貫目毎の量)の紅汁中に木綿を五分間ひたして取り出し、其汁中に硫酸九夕余入れ、能くまぜ、再び木綿を一時間ひたし、取り出して二回浄水で洗ひさらに桶よ浄水をミたし、別器に酒石英少許入れ、熱湯をそゝぎ溶解させ、桶の浄水中よ入れ、稍酸氣を覺えるのを度とし木綿を入れ、暫時ひたして取り出し、水氣をしぼり、室内でほし、蒸氣および日光に觸させあいやうよそるのです

　藍色染　藍瓶の中に沈澱物の能く沈澱そるをうかゞひ、徐々に木綿を入ゑ、十五分ひたし、また徐々に取り出し、藍汁を瓶の中に絞り、空氣よ一時間もさらし、浄水で能く洗ひ水氣をしぼり、干そのです

　空色染　桶よ水をみたし、其中に硝酸鐵一合八夕余入ゑ能くませ、木綿を入ゑて二十分ひたし、取り出し、更よ別の桶に浄水を入ゑ、黄色血滷鹽三十匁を溶解させ、かの水中にそゝぎ入れ、又硫酸を五夕入れ、能く混せ、木綿を十分ひたして取り出し、水氣を絞り、更ふ別桶よ水をいれ、明礬七匁

五分とかし、木綿とひたし、直にとり出し、水氣をしぼッてほすのです。

瑠璃色染　甲乙二桶とおき、甲にハ熱湯四斗五升をミたし、硝酸鐵七合五夕入れ、乙にハ微温湯四斗五升入れ、溶解したる細末の黄色血鹽五匁十、鹽酸一合八夕余入れ、まづ木綿を甲に入れ、三十分ひたして取り出し、水氣をしぼり、淨水でよく洗ひ、又水氣としぼつて乙に入れ、二十分浸し、取り出して又水氣をしぼり、二回淨水で洗ひ、水氣をしぼり、ほすのです。此分量で大巾木綿九十丈染められます。

寄書

西洋菓子製造法　うめ子

第八　甘麪麭(Sweet Bread Cake)

なまぬるい湯半「パイント」へ獨逸の麹を一「オンス」溶かして、麪粉一「ポンド」の中へ入れて半時間も經ッてから別にバタを溶して二「オンス」、砂糖四分の一「ポンド」、橙皮の砂糖漬を一切れ、カラウェーの粉少し許りと而して支那のレモンで香を附けた混せ物を始めの調合物の中へ入れて、それを復た半時間ばかり置いて、バタを塗つた錫鍋の中へ入れて焼くのです。其焼き方ハ始めの間十分程の中ハ烈火と加へて時を經るに從ッて漸々火力を弱めるのです。

バタを混せる時に玉子を一つ入れゝバ更に一入の味を増すものです。

第九　茶菓子(Tea Cakes)

牛乳一「ピント」をなまぬるくした物の中へバタ二「オンス」と溶して、新らしい獨逸の麹一「オンス」、鹽を善い加減に一摑ばかり、細い粉にした砂糖二「オンス」、玉子を二つ入れて能く掻きまハして、上等の麪粉二「ポンド」と更に混合して、平等に混せて出來上ッた物と半時間ばかり乾かして、再びこね、錫鍋へ入れて乾かして、さて竈へ入れて焼くのです。

第十　家製麪麭(Household Bread.)

冷めたい水一匙ばかりの中へ獨逸の麹半「オンス」許りを溶し、それになまぬるい湯三「ギル」(一ギルハ四分の一パイント)を加へ、別の器へ上等の麪粉一「ポンド」を入れて置て其上へ右の混せ物を篩ひ込むのです。　それでこれと成るべく速かに行なふが宜しいです。　右の法を行つた後鹽を一摑ばかり入れて手又ハ木の匙で能く混さるまで掻きまハして、更に一「ポンド」の麪粉と少しづゝ入れながら絶えず捏ねるのです。右に混せる粉の性質に依つて水の分量が多くなければ容易に

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

混ざりません。　しのし乾く位の方が反ッて味は宜く出來ます。　右の混せ物を八十度位の溫度で一時間ばかり暖めて、粉とふりかけた測板の上へ載せて堅い棒れ樣に延ばします。右れ指圖の樣ふした處で乾し方を速かよしありれバ麵麭がのうまく脹みません。　で燒く方は一時間程で出來ますが最初十分間は火力を充分にして後にて漸々弱めるれでそ。

第十一　棒麵麭(Rolls)

なまぬるい湯一「パイント」許に獨逸の麴二「オンス」を溶た、上等の粉を一「ポンド」だけ右の上へ篩ッて入れて更よ並の麵粉一「ポンド」を少しづゝ入れて能く混ぜ、暖かい場所へ置いて乾かせて出來上ッゐ處で六つに分けて、棒麵麭と燒く機械に入れて急に燒くのです。

江戸紫へ御忠告　　もゝんがア

まあたしてももゝんがア出すぎた事とは知りながら何か一つ申さくでムらう。　優美と云ふ字を頭のステツペンに載せてムる淑女方は耳を塞さ眼を閉ぢて、まづ〳〵聞きもせず見もせぬ方が反ッて御爲光でムる。

とあろで文壇の一勇者「江戸紫」殿へ。　淑女からはじかれる腹癒せをする譯ではあく、　心から底から貴殿の御勉强には此もゝんがア少なからさる感服を呈するて。　さきにて文壇十傑の投票を募られたげな。　其事の眞言であく皆うの眞で(もう澤山だ!)ある事はこのもゝんがア五厘の郵便切手を張つて江戸紫のつぶきるまでは…オットどッこいこきは失禮、海路を陸地と換へた處が畢竟到底、つまる處イヤオ困る處は落ればおあじ谷川の水、云ふ事は云はなりれむならず、云てあくても善い事て云ふよも及ばず、云ふにはやはり十傑から始先なければあらぬわい。　耳よ章魚が出來やうと出來まれとそれはもゝんがアれ知ッた事であく。もゝんがアそたい自分の云ふこととさへ云へば腹の虫て治まると云ふどうくのが僊者!　其我僊者の目に觸れたれは貴殿の御不幸と云ふもの。　近頃以て御氣れ毒よ存ずる。

もゝんがア決して文壇の三勇者一心命之助殿、尾崎紅葉殿、江戸紫殿、右いづれの御方とも不了見ざと云ふ譯ではあれ。が、今度募られた小說十種れ投票ふつ以てはし少しく感服仕り兼ぬるて。　尋よ募ッた十傑の投票でさへ、端數があかッたには此もゝんがアも誰れやらと同意見で實以て不思議よ存せしところ、果して正直正太夫殿、緣雨醒客殿其他の面々ふは彼れ是れ御議論が有ッたげあ。　其議論は今更此處で云ふ必

要もないからそれは抜よして骨れない蹟見た樣よづる〳〵べ
ッたりにして止先て置くで厶らう。
そふんでアの感服仕らぬ個條今更めて云ッて聞かさう。
そも三勇者と如何に思召さるかは知らねど一体全体其投票に
應ずる者は心は何うであらう？　硯友社で發行にある雜誌
で募る投票だから硯友社員の作よあつたのが少くては……あ
んかんてエ考を起さないよも限らず、よし起さないで正當は
投票とした處が投票の期限が終ッてさて審査も濟んだ處で硯
友社員の作が多クッゝら世人は十傑の投票は時の樣な感覺を
起しはせまいか？　これが其一つ。　もう一つは前の場合
と丸で反對で、硯友社で發行にある雜誌に硯友社員の作を多
く投票したら……といふ考を起して硯友社員の作にないッて小
說を指名することが少なく、審査を遂げる時硯友社員の作が
少なかッたら世人と硯友社員と……と云ふ樣な感覺は起しは
せまいか？

いづれよしても江戶紫に關して世人が抱く感覺が善くムる
まい。　いかに文壇の三勇者！　何んと〳〵。

田舍都女

れ繰言、幸ひに容れらるれバ幸甚々々。

言文一致についての意見

鹽澤 庄吉

今日文學社會の盛んでない（尤も或る部分は盛んです。
しかし進步しません）のも憂ふべきことですが第一文
章のきまらないのが心配なことです。いくに日本の言語が
和漢洋うち交せてあると言ふたとて、文章よ和語を用ゐ、漢語
を用ゐ、洋語を用うるなどと以ての外れことです。文章が
和文にもつかず、漢文よもつかぬであるから世人は益々うち
まぜ語を用ゐるです。試みに書生は談話や官員の會話でも
お聞きなさい。隨分いろ〳〵な語を用ゐるでしやう。畢竟
これは文章の科、文學者の罪と言ッても格別な言過ぎでもな
りますまい。文章の一定しないのは文學の一定しないので
あると云ふても差支ない位。まことに困ッたもの今日の時
世はさうしたものではありますまい。私は文章をきめるに
ついては言文一致が私しの主義。世間にいくらも私しに先ッ
て言文一致說をとなへた方が澤山ありまして、小說に文章よ
言文一致でかゝれるは喜バしい事ではありますが惜しいこと
よはまだ言語と云ふものを取調べる氣よならなんだり、文格
文法と云ふものをきめる氣になるものがないやうであるのが
實に遺憾です。　今日の言文一致と見ると漢語を用ゐないで

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

そむのに漢語をつかひ、和語を入れないでそむのに和語をなくては先、甚だしいのは眼前洋語などは決してつかふべきでないところまで洋語を用ゐるなどがあつて、夫れは〳〵二三の名家を除くの外は見るに見られないです。　其筈日本語は錯雜してゐて、現に西京と東京とは大した差があり、また地方へゆくにしたがつて非常に違つてゐます。　またこれは日本語として用ゐてよいかわるいのわかりかねるのもあるやうです。　うらそれも止むを得ない。　止むを得ない許りでなく如何に不束な語で書いてもそれはいけんと言ふことが出來ない。　この有樣では言文一致も博覧會と屑屋の籠とあつめて綿屋にうちまぜさせるやうです。　嘆かはしいことではありませんか。　日本は文章もうまうと思ふと容易でない。　これはなぜかうだらうと言ふと言語と一定しないからです。　いや言語を一定にしやうとするのではない、言語をとりしらべて其言語で文章をかゝないから文章が一定しないのです。　から考へで見ると日本の言語を取調べて一の大字書をなすのがゝ量見、日本語は正しいのゝ有るつ丈古語や漢語洋語は使こんでもそむだけを調べて、いよ使はんければならんのはやこりこれを日本語とすることです。　そしてまた新字をこしらへなければならない。　そは濁音でもない半濁音でもなくてまた清濁半濁等と合せ連ねてもなてとまらない音があつて、これは是非新字を以て補はなければならず、また譯語ではどうしても言へないのは原語で用ゐんければならないのがある、これも原語として用ゐればやはり日本の語であるから日本語の中に加へなければならないので、そして假名で書いてはいけないからやはり字をきめて書くことです。　斯樣して一大字典を設け、それに從つて文典と云ふをきめ、これを標準として文章を書いたらさつぱりとして日本文章が出來即ち言文一致が出來ましやう。　今日は新鮮なる文學の創造時節で、第一番の手始めは文章は一定です。　私の說のやうにして果して文章を一定すること出來たら文學の法律が出來たと同じことです。

文章を練るものは有つても文章を究えるものは無い今の世の中に、如何にも殊勝な心掛け、同じく言文一致に片足踏みこんだ私も敬服しましよ。不肖ながら今日は俗言の考究はこの四五年來力めて居るところ、語格文格の中で今までに少しばかりは書して世の中にも出しました。　淨目は止らぬか知りませ

んが、學海の指針國民の友あせよ出しました。竊かにこの考究ハ死んでも遂げやうとの決心、同好の士を見るに迨んでまづ嬉しく思ハれます。仰せのと個り新字と語典（字典で無く）ハ是非とも必用あこと、詮せる處私も同感です。今後折角の御盡力ともに望ましく思ひます…………美妙齋

拜啓未得拜眉候得共益々御盛大奉賀候。

岩槻より

陳ハ今日友人より御社發行のいらつめ借用仕り、四十五六号のとらんぷ遊戲法の數理と申すを一讀仕候處如何にも平易に御説明有之、我々とても一讀れ〻にて該理を合點仕候。中々の御手際（女姓として考へ）感佩の外御座なく候。さる處「で、群か……一定した規則ハありません」との事故雨ふりの徒然に任せ一般の公式ハ之れあるかと思ひ、一考を凝し〻處何くらかハ公式と名づけ得べきもの出來仕候間入貴覽候。いらつめ仕込のもれに御座なく候得ども御叱正を仰ぎ度ま〻申上候。

今一番下よふせし札の奇數とAとし、ふせたる札の札數とBとすれバそのBの數ハ$7-\frac{A-1}{2}$あるべし。それ一、三、五、七、九、十一、十三の七枚の〻を用うれバあり。故よ組數nだけあるときよ

$$7-\frac{A-1}{2}=B_1$$

$$7-\frac{A_2-1}{2}=B_2$$

$$7-\frac{A_3-I}{2}=B_3$$

....

$$7-\frac{A_m-1}{2}=B_n$$

$$7n+\frac{n}{2}-\frac{A_1+A_2+A_3+\dots A_n}{2}=B_1+B_2+B_3+\dots+B_n$$

然るに$B_1+B_2+B_3+\dots+B_n$ハ場に出せし札數あれバ、それ數ハ五十二より餘りし札數Rと引たしものなり故に

$$7n+\frac{n}{2}-\frac{A_1+A_2+A3+\dots An}{2}=52-R$$

$$15n-(A_1+A_2+A_3+\dots An)=104-2R$$

$$\therefore$$

$$A_1+A_2+A_3+\dots+An=\Sigma A=15n+2R-104$$

言を換へて云へバ拾五に組數と懸けしもれに餘りし札數れ二倍を加へ、それよりいつも104と引けバ最初にふせし札れ奇數の加を見出せあり。

通信紹介規則

(一)通信物品紹介文掲載を望む者は原稿と共に掲載料及保証料を送る事(二)掲載文に對し約定を望む人ハ其代金及保証料を送る事但し此保証料は相手の掲載文の保証料と同額の事(三)掲載料ハ五号活字廿七字詰一行金五錢宛保証料ハ一行五錢宛(四)雜誌發兌の十日前に受取つた申込ハ其号、十日後のは次号ニ載せる事(五)紹介文申込後其取消請求か有ても領收金員は返さぬ事(六)紹介文掲載後約定望人か既に出來、そして掲載申込人か取消請求した時にハ双方の保証料を悉く最近のいらつめに換へて約定望人に返す事(七)約定望人か一時よ二名以上有る時は約定申込書の郵便の消印の時刻で前後を定める事(八)既に一名の約定人が出來た時は第二の約定人には別段返事を出さず其代り第二約定人の保証料を最近のいらづめに換へ、其他の代金は三十錢以下一割増の切手又三十錢以上は爲替で返濟する事、但し返送料は其内から差引く事(九)約定望人が有れば本社は直に郵便で掲載申込人に其趣を知らせるに付き通知得次第掲載申込人は其品物を運賃自辨で本社へ送るべき事、本社では品物と引換に、代金を三十錢以下一割増の切手三十錢以上爲替掲載申込人に支拂ひ、直に其品物を通運便先拂で約定望人に送る事、是等の場合に於て保險を望む人は豫め其由を言込む事、但し保險料も自辨の事(十)約定出來の上は約定双方の人に各保証料を最近のいらつめに換へて返す事(十一)此約定は最も双方の誠實を尙ぶ事ゆゑ其間に双方共虚僞を挾んでは爲らぬ事、品物其他共本社では紹介するばかり其品に就ての責には一切任ぜぬ事、物品差立の荷造は成丈丁寧にして封印を打て置くべき事、本社では決して之を開封せぬ事(十二)其實物に接せぬ獨り誠實から成立つ約定ゆゑ申込人も其品物の体裁を眞實に記すべき事(十三)掲載の文には本人姓名を秘す事、但し本人から姓名宿所も掲載の命が有れば例外(十四)以上規則に因つて取扱ふ物品は普通の小さな物に限る(十五)以上諸條の犯則は悉皆沒書の事○(一)奉公口の紹介周旋に對し紹介約定申込が有れば本社から其趣を本人に通知する事但し是は物品と違ひ其後の事に本社で干渉せす都て双方の勝手に任せる事○番号の欠けて居るのは最早約定濟になつたのです○紹介掲載は三回が一區切

○賣拂

(二四)セレクトポエムスチンバールヅ、諸大家の作を集めたもの、廿八頁、五錢……東京本郷

(二五)リツトン作小説デベロー、百五十七頁、表紙少し損、賣價金十五錢……仝人

(二六)ウオーダースコツト作小説、タリスマン、百七十頁、賣價金二十錢……仝人

○買入

(二七)朝野新聞第一号から論文切拔……佐渡

○雇人

(二八)年齢十二三歳以上女子よして學資不十分の爲にを得ざる者學婢として雇入たし……東京神田

通信問答

花房八重子――絨氈を布かずに置く西洋風客室の床板ハ上等よして普通が槻、中等よして栗などが堅くて宜しいです。之をふき込むのハ甚だ困難ですが、西洋でハ多く塗りぐそりを以て之に色を付けます。 即ち其最も容易なのハケロシーン油といふ油です。 藥屋に有る油で廉價な品です。

た、ふ――(一)どの指よ喪の指環をハめるといふ規則ハ西洋の禮式よ有りません。どれへ嵌めても宜しいです。

市ヶ谷三女史――(一)顔にあるシミ又ヨゴレハジン(杜松子酒)で洗ふと全く落ちますが、用ゐた後で石鹸を用ゐてハいけません。寐る前之をつけ、翌朝まづ清水で充分に洗ひ落とし、その後あらバ石鹸を用ゐても宜しいです。此法ハ以前のいらつめよ出しました。効能ハたしかに有ります。同酒の價ハ高くありません(一)硼砂二ドラクマ、こんどころん一オンス軟水一パイントの合劑もソバカスを落すよ効の有る物です(三)サルサ根を持藥よしていよ〳〵久しけれバ久しいほど効が見えるものです。

福島の幽蘭――府下で屈指の女學校ハ明治女學校櫻井女學校東洋英和女學校女子職業學校女子高等師範學校成立學舎女子部などです。

無名氏――(一)藝妓を校書と言ふのハ近頃はじまつた語でも有りません。是ハ漢語ですが出處を失念しました(二)洋粧の婦人で顔よ網を掛けるれが有るのハ必ずしも貴賤に限りません。又ひとり日本人に限りません。

田舍娘――(一)茯苓疾痢等(いらつめの前号に出した方法)の合劑で天然痘の痕を洗ふのハ成るべく氣永よ爲さい。之で洗つた後にハ矢張りいらつめ第五十七号K. H. さまへの答へれ法を行ふよりハはんどころんと塗るが宜しいです、(二)硼砂でで顔を洗つて些しも健康に害ハありません(三)硼砂ハいつ用ゐても宜しいです(四)腫物の痕を去る法に用ゐる鳥粉、蛇退皮等ハ是非とも欠いてハいけません(五)はんどころんハ代價七十五錢遠國遞送函代四錢其代にハ通運料です。

井の中れ蛙――(一)「あらす」とハ前後も無くてわかりません(二)「まづ」ハ賤、「をだまき」ハ苧を卷く手環、手環ハくりかへすもれ故即ちしづのをだまきくりかへすと言ふのです(三)たらち

ねの親といふれが正式で、たらちねと直に父母とそるのハ轉用です㈣南無三といふ間投詞ハ南無三寶といふ經文語で、南無ハ印度の古語即ち「異」、「寶」あどの意、三寶ハ佛、法、僧の三つの事でつまりハ切迫つまつた時れ間投詞に日本でハ用ゐて來ました㈤七難とは盜難、劒難、女難あどの人生の大苦厄七種のことを一般に言ひますが、色の白いので七難かくれといふ七難ハ別義です。此方の七難ハ身になる七種のふつゝかといふ事です㈥文章の妙所要所よう つ圈点ハ支那の中古うら用ゐました。創造人ハ知れません㈦東京でも特よハ「おつかあい」といふ語を用ゐますが下流の語です㈧石炭酸も年を經れバ間々腐敗します。腐敗したれハ使用上無効です。

家原春子――㈠黒子ハ硝酸で拔けますが是ハ醫者れ手を待つた方が宜しいです㈡毛生藥ハ前々れいらつめにいくらも出て居ました㈢紅葉散士とハ誰れ事か知りません。紅葉山人あら小說家です。

鈴のや――㈠背の高くて痩せて見えるれを醜く無くそるよハ成るべく横縞の着物を着あさい。そして割りに廣い帶をし光るのです。かならさ見よく見えます㈡前の家原さんの第一と御覽あさい㈢通信紹介の事公人之學術上のものよ限りません。

はむゝ――㈠御質問の文句の意義解譯ハ如何に古文とハ言へ公然とこゝに掲げるのハ餘り猥褻よ步りますうら書きません。文學專攻と仰やるのならバ郵券御送附次第手紙で御答へします㈡谷蛾ハ歌澤節端唄を作つて能六齋と號しました。

星學女――其の星が一番己れ〳〵よ近くてそして其巨離ハ何程との御問ひでしたが、思ふにわれ〳〵大陽系の星ハ取り除いてれ事でしやう。己れ〳〵大陽系に屬そる星の内にハ御承知のとほり水星金星木星あそ其他種々あります。是等の巨離ハ普通れ理學書よも出て居ます。たゞ大陽系以外の星と此地球との巨離れ最も近いもの、細絛よついてハ猶學者間に種々あ疑ひも有ります。が、まづ此道の博士ろつきやあ氏の說よよれバ其近いもれでそから地球から大陽迄の巨離の五十万倍でゐるとの事です。

太田さん子――㈠仰せのとほり汽車に乘るに其進む方向に背と向きて腰を掛けて居るのハ大きに身体を疲らせる物です

是ハ成るべくさうで無くして居るよ限ります㈡汽車に乘つて居て大抵れ人が物珍らしさうあ外の景色と眺めます。あれもゐろくも有りませんが注意すべきことハ切り通しとか林とか直よ目れ前よ近くある物の所を過ぐる時にハ注意してそれを見あいが一番です。近いものハ早く飛ぶやうよ見えゐ事が甚しいもののゆゑ大よ目に刺激を與へ、從つて弱い人ハ終に目眩などを起し、汽車をおりても困るものです㈢汽車に乘つて居てよく風の方向を見て窓から顏を出すが肝要です。風れ方向ハ烟りれ靡き方で分かります。烟が汽車の方へあびけバ右の窓へ顏を出そのはよるく、左へなびけバ左へ顏を出すれがわるいです。そると得て石炭の烟の煤が目に飛び込んで大よ目を傷めるもれです。得て馴れぬ人ハこれとやつて仕損じます。注意すべき事です。

薬田美代子――㈠六種香れ內一番芳馥優美なのは大內香と荷葉香とです。大內香ハ宮中で焚き慣らされる香で、荷葉香も亦かしこい邊の御用です。遠く薰るのハ荷葉香ですが、密室のかとりよハ大內香が宜しいです㈡麝香多量の香ハ品位よ乏しいです。伽羅沈香白檀栴檀れ材料でうまくかをらせるれが手際です㈢日本よ來て居る香水の內でまづト等なのハよく人の知る鹿印白薔薇、コルゲート商會のカシミヤブケー（白薔薇）、佛製菫菜香水などです。

戸田とつ子――㈠唇を眞紅よするれハ上等の化粧法でありません。是は薄紅にそるのが宜しいです㈡目尻に紅をつけるのはもとや廢れてむかしのもれにありました。耳へ紅をつけるも同じことです。

しづ江――ビスケットハ滋養えもあり、もつとも食料にハよろしいです。

玉琴――第六十五號通信欄みどり姫への御書葉について意見を御知らせします。玉琴ハ空物語玉琴とて本居翁の弟子細井貞雄大人の著述で一二の二卷あります。値段ハ二十錢前後ろして是はから物語の注釋書です（やつれを）。

鼠よけの法――鼠とよくるよハ鼠のかぢる處へ石炭油と塗るのが宜しいと聞きました儘御しらせ申します（ため子）。

薔薇の色――薔薇の色をよくそるにハ烟草れ粉を根にやるのが宜しいです。油虫よけにもなります（はる子）。

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

○懸賞文藝新題

○第廿八回題(何でもよし)　九月十日〆切
　右　寫中れ人の品定め
○第廿九回題(何でもよし)　九月廿日〆切
　右　子の生れた時の親心
○第三十回題(唱歌文章に限る)　十月十日〆切
　右　殘夢
○第卅一回題(唱歌文章ニ限る)　十月廿日〆切
　右　猫
○第卅二回題(何でもよし)　十一月十日〆切
　右　新婚旅行の人ニ贈る
○第卅三回題(唱歌文章ニ限る)　十一月廿日〆切
　右　小春日和
○第卅四回題(何でもよし)　十二月十日〆切
　右　萬蔭の獼猴
○第卅五回題(何でもよし)　十二月廿日〆切
　右　春衣裁縫
○第卅六回題(何でもよし)　一月十日〆切
　右　人ニ半襟を送る

右第廿八回題と男女に限らず或は夫、或は妻、いづれにしろわが望む理想の佳人君子の品定をと言ふのです

この頃れ應募者には應募規則ニ背く者が有りますが是から其作の巧拙に關せす犯則と容赦なく審査外にします。

●右文藝應募者心得

第一　題を題にして成るべく趣向と立てるれを貴ぶ事○第二　唱歌淨瑠璃及び文章は各一千五百字以内の事○第三　一人で二種類の作を投せられた人は一種類各別々れ紙ニ書く事○第四　原稿には宿所姓名明記の事○第五原稿は半紙に限る事○第六　第二第三第四及び第五に背くものは沒書。

賞品も菊水摸樣の金叉は銀杯

右賞品は一等賞の者、二等三度の者、三等六度れ者、四等の八度の者及び是と同じ資格ニ相當せる者に限り進呈します。

俳諧明倫雜誌●毎月廿五日發行●總テ三十四頁●金八錢●壹ヶ年分金八十六錢●錄事●論說●諸家新聲●國文解●質疑●餘興月並●雜錄等れ諸欄に分ちて俳諧上關係れ事を汎く掲載し雜誌なれい該道を嗜む君等は勿論苟も文學ニ心を寄する君等と机上に欠へからさるなり。
●前金購求者れ發句は毎號一句宛掲載すへし
●餘興月並へ投稿は左之通
當季亂題　十句金七錢　廿句金拾錢　餘い十句三錢增
細畔舍松江　兩選　各秀逸へ吳絹書讀掛物地及抜卷を贈る各卷
香楠居爾左　　　頭卷軸へ書箋聯落一葉外三十客へ短冊一葉宛贈る
古毎月十日無延〆切七點以上明倫雜誌へ掲載御銘々へ無渋送本す●返草を望まるゝ別に金貳錢御添れと
○當社へ係る送金と現金若くハ郵便小爲替券(社名宛東京郵便局振込)郵券代用は一割增
東京市日本橋區蠣殼町二丁目四番地　明倫社

教育第三十八號
明治廿三年八月廿五日發行

●●●●●
教育學說文藝雜錄雜報
吹空論
教育三礎要論○手工教育論○動物學○算術略論○新日本女子教育論
詩三首○和歌二首
○遊後樂園記
小學教育ニ關スル女子ノ職務如何○西史一夕話
○教育叢話○詩伯ホーマー傳○恆例諸公事篇
小學校の英語科●博覧會の縦覽人脱帽れ起原●奸商と善商●一等有功賞●尙德古物展覽會●同窓會●學疫●小學教育の變遷●廣告
(一冊金七錢●六冊金三十八錢毎冊郵稅金五厘號ナ探ザレハ見本一部ニ限リ無代價ニテ呈ス但シ郵稅自辨
發行所　東京日本橋區村松町七番地　學海指針社

遞信省認可

此廣告文切拔御持參の御方ょ限り一割引

第三回内國勸業博覽會審查官●農林學校敎授 農學士

古在由直先生肥料無害證明

一壜十五日分代拾貳錢
ーダース割引申候

臭氣止おコきキな

醫科大學敎授 醫學博士

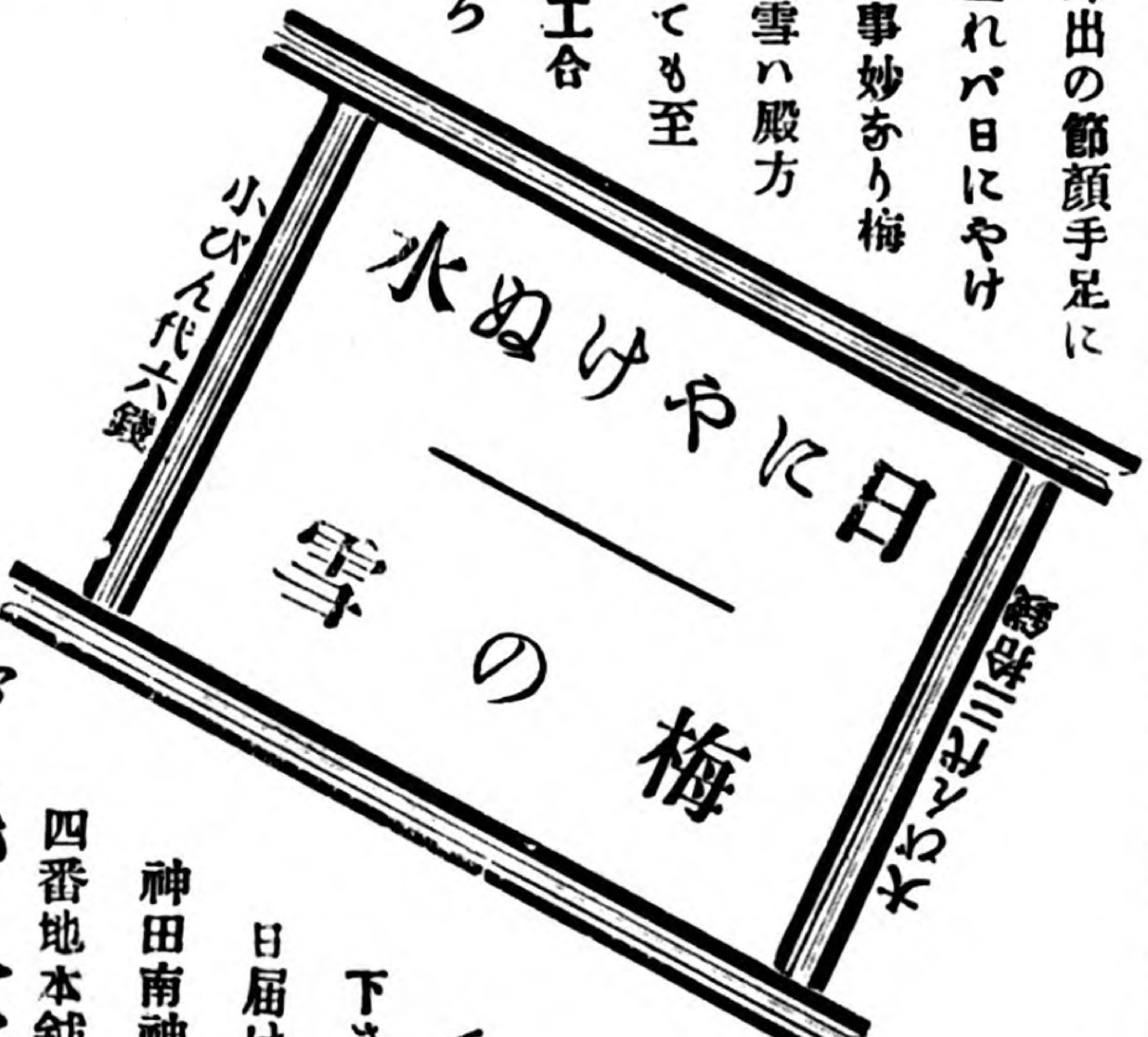
緒方正規先生下水實驗證明

此藥は使用に極手輕く大小便所芥溜下水に撒布する時は全く無臭となり他の臭氣なく夫が證據ハ博覽會場内各劇場等便處に實地試驗廣告仕候

臭氣止一切受負も可仕候又一壜にても配達申上候

御用の御方ハ御最寄の藥店にて御購求被下度候

外出の節顔手足に塗れバ日にやけぬ事妙あり梅れ雪ハ殿方にても至極工合よろし



府内は端書よて御申越下されバ即日届けますよ

神田南神保町四番地本舖 おきなや

府下取次

下谷池端守田○京橋出雲町福原○京橋銀座一丁目佐々木○京橋上槇町安川○牛込築土尾澤○麴町四丁目小西○四谷御門外灰吹屋○本郷眞砂町尾澤蒼生堂○芝西久保町博仁舍○牛込神樂坂上尾澤○神田小川町笠井○京橋佐柄木町上田○兩國吉川町古矢○下谷西黑門町理生堂○麴町三番町雨宮○神田小柳町森島○全淡路町風雲堂○全町眞壁○赤坂田町二丁目増田商店

地方取次

大坂南久太郎町旭屋商店○大坂淡路町日野商會○遠州濱松連尺木村○兵庫港町庚屋中川商店○岩代若松七日町一木鈴本商店○備中倉敷林源十郎